

2022年度 第2回 テーマ別ミーティング

リスクソリューションのプラットフォーム としてのリスク関連サービス事業の取組み

2022年12月21日(水)

MS&ADインシュアランス グループの概要

持株会社

MS&AD MS&ADホールディングス

国内損害保険事業

MS&AD 三井住友海上



MS&AD あいおいニッセイ同和損保



MS&AD 三井ダイレクト損保

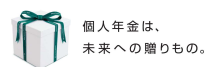


国内生命保険事業

MS&AD 三井住友海上あいおい生命



MS&AD 三井住友海上プライマリー生命



海外事業

海外損保事業

海外地域事業

アジア

欧州

米州

テレマ・モビリティ事業

本社再保険事業

海外生保事業

金融サービス事業

リスク関連サービス事業

この資料では、社名表示に次の略称を使用している箇所があります。

- ・ MS & ADホールディングス (=MS & ADインシュアランス グループ ホールディングス(株))
- ・ MS & AD (=MS & ADインシュアランス グループ)
- ・ インターリスク総研 (=MS & ADインターリスク総研(株))

将来の見通しに関する記載等に関する注意事項

この資料に記載されている内容のうち、MS & ADホールディングスならびにグループ各社の将来に関する計画や戦略、業績に関する予や見通しは、現時点で把握できる情報から得られた当社グループの判断に基づいています。

実際の業績は、さまざまな要因によりこれらの業績見通しと異なる結果になり得ることをご承知おきくださいますようお願いいたします。

実際の業績に影響を及ぼし得る要因としては、(1)事業を取り巻く経済動向、(2)保険業界における競争激化、(3)為替レートの変動、(4)税制など諸制度の変更、などがあります。

2030年に目指す姿

レジリエントでサステナブルな社会を支える企業グループ

中期経営計画の定性目標

リスクソリューションのプラットフォームとして
気候変動をはじめとした社会課題の解決に貢献し、社会と共に成長していく

- 経済的な損失の補てんに加えて、補償・保障前後における商品・サービスをシームレスに提供する
- デジタルを活用したマーケティング、アンダーライティング、損害サービス、リスクコンサルティングにより、最適なソリューションを提供する

価値創造ストーリー

MS&ADの成長戦略

- 「リスクソリューションのプラットフォーマー」として、MS&AD Value戦略を軸にさらなる成長へ向け取組む。

現中計期間

10年後

将来

事業横断

MS&AD Value戦略

- ・ 補償/保障の前後のサービスを付加した保険商品の拡大
- ・ リスク関連サービス事業/データ事業の拡大

インオーガニック成長

- ・ 「拡大」のための投資
- ・ 「創造」のための投資

国内損保

火災保険の黒字化

利益の安定化

事業費率の削減

新種保険の拡大

生国内保内

保有契約の積み上げ

保有契約からの安定的利益の拡大

海外

MS Amlin
の黒字化

M&A当初期待利益
への回復

一層の事業成長

アジアの成長力の取り込み

MS&AD Value戦略の推進

- 「リスクソリューションのプラットフォーマー」として、インターリスク総研をグループの中核に、デジタル・データ活用による補償・保障前後のサービスや、コンサルティングなどのリスクマネジメントサービスを強化し、新たな事業機会を創出する。

補償・保障前後のサービスの展開

- 補償・保障前後における新しい価値を提供する商品・サービスの開発と収益化を実現



- MS&ADベンチャーズのスタートアップ投資等を通じて得た知見のグループ全体での活用 など

リスクコンサルティングの拡大

- インターリスク総研を中核としたリスクコンサルティングのグループ一体運営
- リスクコンサルティングサービスのソフトウェア化による収益の拡大 など

2022年度より、インターリスク総研を中核として、
サービス開発・事業展開プロセスごとにグループ各社との一体運営に移行

リソースの最大化と
インターリスク総研の開発力



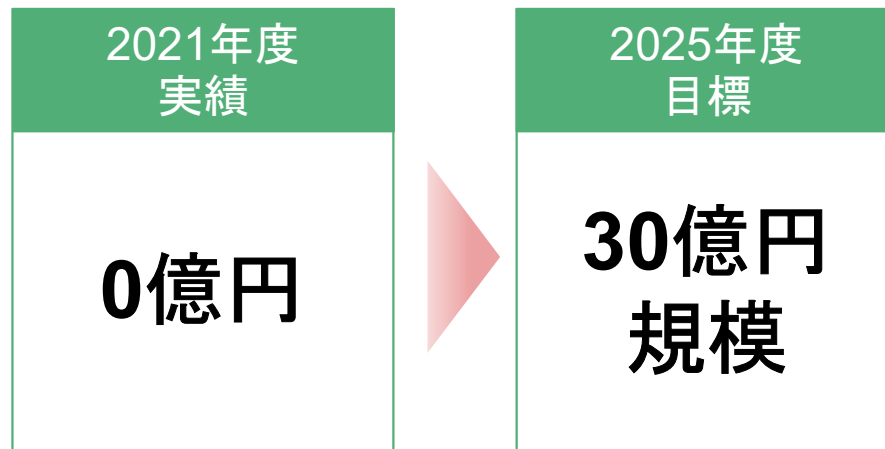
保険会社バリューの活用
(販売力等)

リスク関連サービス事業／デジタル関連・コンサル関連ビジネスの成長目標

- リスク関連サービス事業は、2025年度に30億円規模の利益を目標に取り組む。
- 事業会社のデータビジネスを含むデジタル関連ビジネス／コンサルティングは、将来の売上1000億円規模への成長を目指す。

リスク関連サービス事業の利益目標

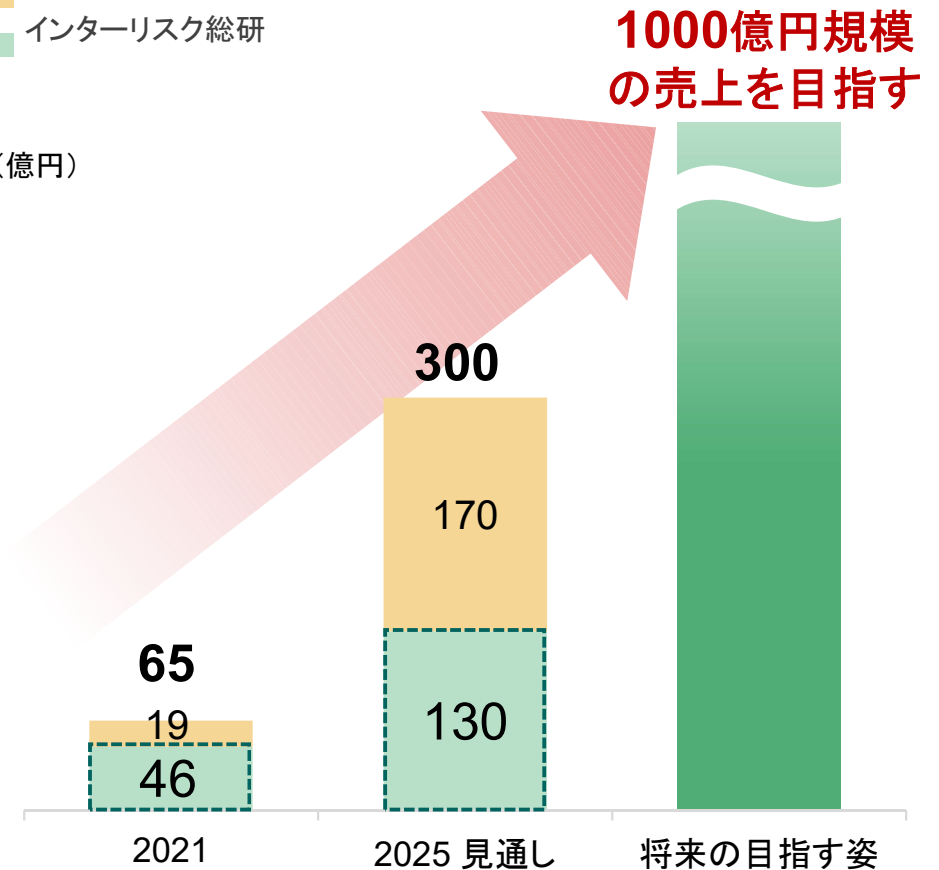
- 中期経営計画(2022-2025)では、インターリスク総研のリスクマネジメントサービス強化などの各種取組みによる利益成長を目指す



デジタル関連ビジネス／コンサルティングの売上高

- その他(事業会社が行うデータビジネス※など)
- インターリスク総研

(億円)



※企業向けリスクソリューションサービスのRisTechや、米国におけるデータビジネスなど。

本日のプレゼンター



**MS&ADインターリスク総研株式会社
取締役社長**

中村 光身

1984年4月 住友海上火災保険株式会社入社
2015年4月 三井住友海上火災保険
執行役員 四国本部長
2017年4月 同社常務執行役員 東京企業第一本部長
2019年4月 MS&ADインターリスク総研株式会社
代表取締役社長（現職）



**MS&ADインターリスク総研株式会社
デジタルイノベーション本部 副本部長
プロダクト開発部長**

土井 剛

1996年4月 住友海上火災保険株式会社入社
2004年4月 ブラジル現地法人 MS Seguros社 CIO
2013年4月 内閣官房IT総合戦略室 参事官補佐（出向）
2022年4月 MS&ADインターリスク総研株式会社
デジタルイノベーション本部 副本部長 兼
プロダクト開発部長 兼
MS&ADインシュランスグループ ホールディングス株式会社
デジタルイノベーション部 部長（現職）

- 1. インターリスク総研の機能・グループにおける役割と成長戦略**
- 2. 成長戦略としてのソリューション開発
～リスクマネジメント運用サービスの取組事例～**

(参考資料)

- ・ MS&ADインターリスク総研 会社概要・沿革
- ・ MS&ADインターリスク総研 組織図

1. インターリスク総研の機能・グループにおける役割と成長戦略

MS&ADインターリスク総研
取締役社長 中村 光身

(1) インターリスク総研の目指す姿

- グループの5つの事業ドメインの1つ、「リスク関連サービス事業」をけん引していく。
- リスクマネジメントサイクルを完結し、お客さまの事業継続と安定的発展へ貢献することが存在意義。

パーパス（存在目的・存在意義）

事業の継続と安定的発展への貢献

高品質なリスクソリューションの提供により
事業の継続と安定的な発展に貢献する。

リスクマネジメントサイクルの完結

補償・保障の前後を固め
リスクマネジメントを完結する。

コアバリュー（中核的価値観）

卓越したリスクソリューション提供を実現するための
不断の自己研鑽と技術の伝承・発展

課題解決への意欲を支え、
社員が健康でいきいきと働く職場環境の維持・向上

多様性を認め、個人として互いを尊重し意識高く、
誇り高く業務を遂行する

(2) インターリスク総研のサービス概要

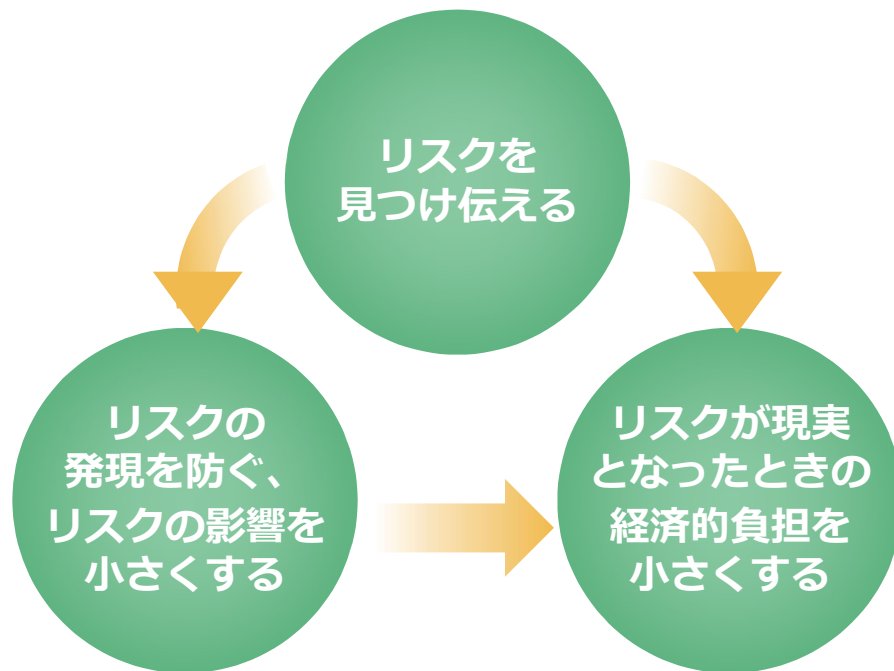
- 事業活動に伴い企業が抱えるリスクに対するコンサルティングを提供。

SDGs SDGs推進支援  SGDs推進支援サービス	サイバー サイバーリスク 情報セキュリティ   - サイバーリスクPML算出レポート - 防検サイバー - 情報セキュリティマネジメントコンサルティング - サイバーリスクコンサルティング	健康経営 健康経営支援  - 健康経営支援 - ストレスチェック - メンタルヘルス(コンサルティング/研修)
気候変動 気候変動リスク分析 カーボンニュートラル   - 気候変動リスク分析サービス - 自然災害リスク定量評価サービス - カーボンニュートラルサポート(CNS)	モビリティ MaaS実証支援 自動運転 運輸安全   - 自動運転・MaaS実証支援 - 運輸安全マネジメントに関するコンサルティング - ドライブレコーダーを活用したコンサルティング	統合リスク ERM(全社的リスク管理)  - リスクマネジメント体制診断 - 企業リスク分析・評価コンサルティング - ERMコンサルティング
防災・減災 災害リスク診断 BCM/BCP   - リスクサーベイ(リスク評価・調査) - 化学物質の漏洩拡散シミュレーション - 事業継続マネジメント(BCM)体制構築支援 - BCM高度化支援	労働安全 労働安全衛生 安全文化診断   - 労働安全衛生コンサルティング - ヒューマンファクターサーベイ - 安全文化診断 - 組織の安全文化構築コンサルティング	危機管理 危機管理・危機管理広報   - 危機管理・危機管理広報 - 海外危機管理 - メールマガジン

(3) インターリスク総研の機能とグループにおける役割

- グループとして目指す姿「リスクソリューションのプラットフォーマー」としてのミッション実現のため、補償・保障の前後においてデジタル・データを活用した新たなサービスと事業機会を創造。

MS&ADグループのビジネスモデル



価値創造ストーリー

グループのミッション実現に向けて、社会課題に向き合い、ビジネスモデルを通じた商品・サービスを提供することで、お客さまが安心して生活や事業活動を行うことのできる環境づくりをサポート。

インターリスク総研の機能・役割



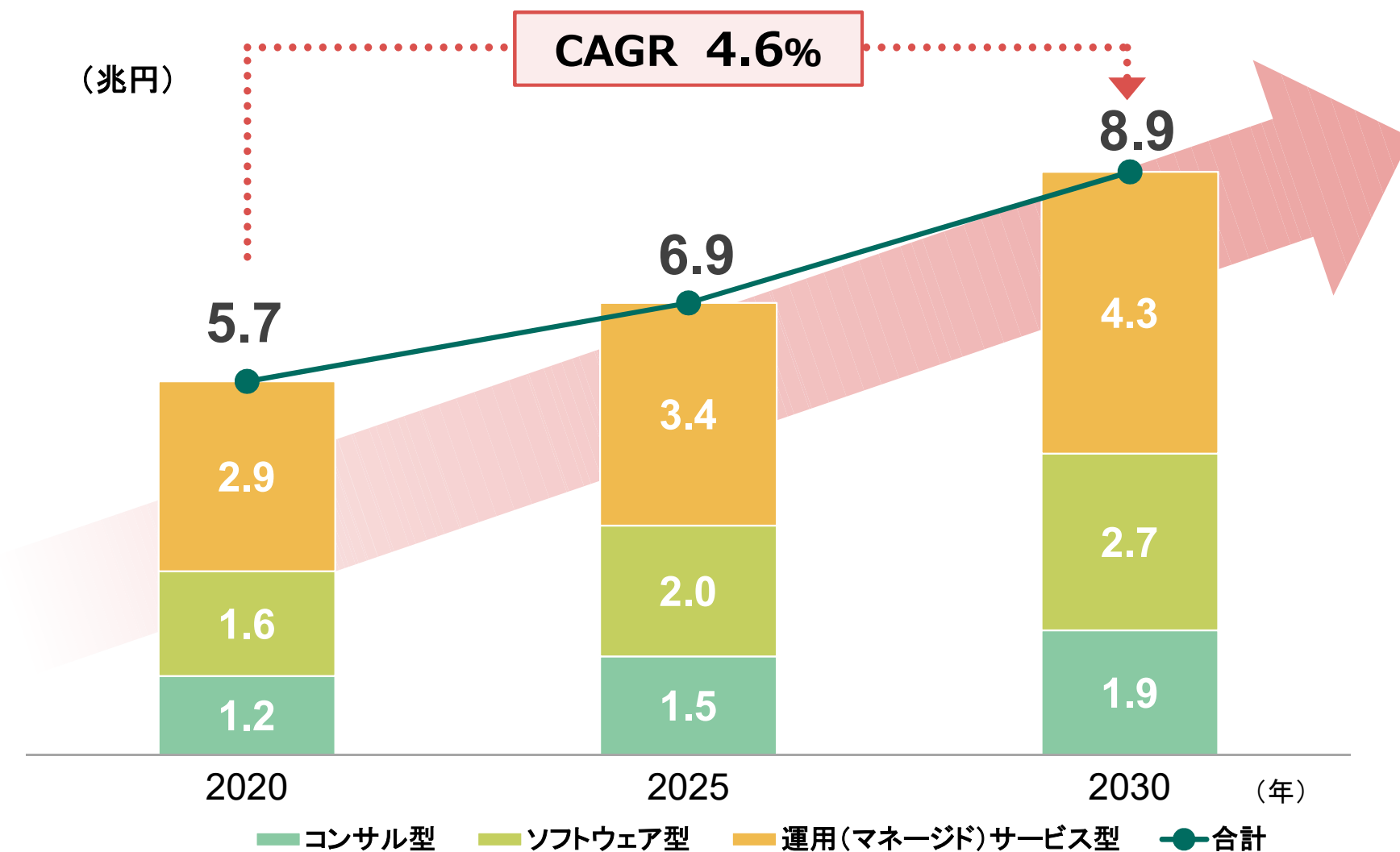
リスク発現の前後を固める

リスクマネジメントサイクルを完結させ、リスクが顕在化した際の補償・保障の前後においてデジタル・データを活用した新たなサービスと事業機会を創造。

(4) インターリスク総研の成長戦略 ① リスクマネジメント市場の成長

- 現在のリスクマネジメント市場規模は約6兆円。今後も年間4%を超える成長率で、2030年には9兆円規模に成長する見通し。

国内リスクマネジメント市場の規模※



※インターリスク総研の市場調査(2021年11月~2022年1月実施)

(4) インターリスク総研の成長戦略 ② リスクマネジメントにおける実績と強み

- 国内トップクラスのスケールを誇る損保グループ企業として、リスクコンサルティング分野では確固たる実績を有する。
- サステナビリティ分野などにおいては他社に先駆けた取り組みにより強みを発揮。

国内最大の顧客基盤と強固なネットワークを活かした豊富なサービス実績

リスクサーベイ実施件数

1,000件(811件)

国内:673件(448件) 海外:327件(363件)

2021年度(2020年度)

研修・セミナー実施件数

4,098件(3,406件)

メディア登場件数

503件(516件)

インターリスク総研の強み(事例)

サステナビリティ

他社に先駆け様々な取組みを推進

<取組事例>

- ・ 気候変動影響定量評価サービス提供(2020年7月)
- ・ カーボンニュートラルサポートを開始(2021年9月)
- ・ TNFD(自然資本財務情報開示タスクフォース)に唯一の日本からのメンバーとして社員が参画(2021年10月)など

その他の分野

BCPやサイバーなどのトップランナー

<取組事例>

- ・ 日本のBCPコンサルティングの草分けであり、高いブランド力を有する(年間約100件のコンサルを実施)
- ・ 経済産業省とIPA※1が創設した「サイバーお助け隊サービス※2」に防險サイバー※3が登録 など

※1 独立行政法人 情報処理推進機構 ※2 中小企業のサイバーセキュリティ対策に不可欠な各種サービスをワンパッケージで提供するサービス制度

※3 端末にインストールしたアプリが、24時間365日、AIによる挙動検知とアナリストによる監視の二重チェックを行う、簡易保険が付帯するサービス

（４）インターリスク総研の成長戦略 ③中期経営計画（2022-2025）の取組み

- MS&ADグループにおける「デジタル・データを活用したリスクマネジメントの中核」を強く意識した中期経営計画を策定。

リスクマネジメントサイクルの完結

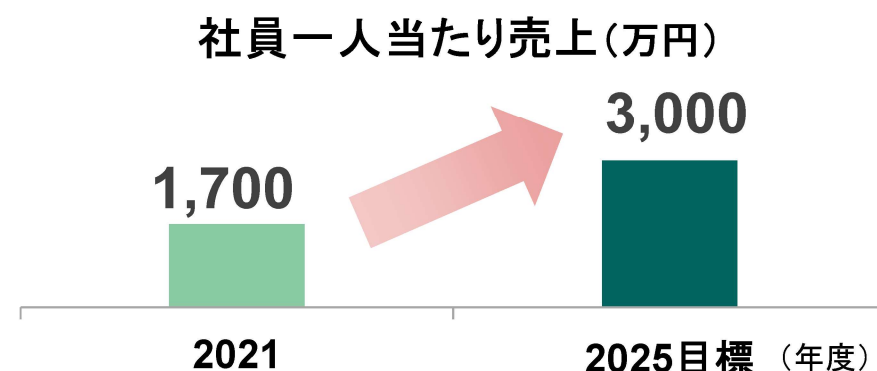
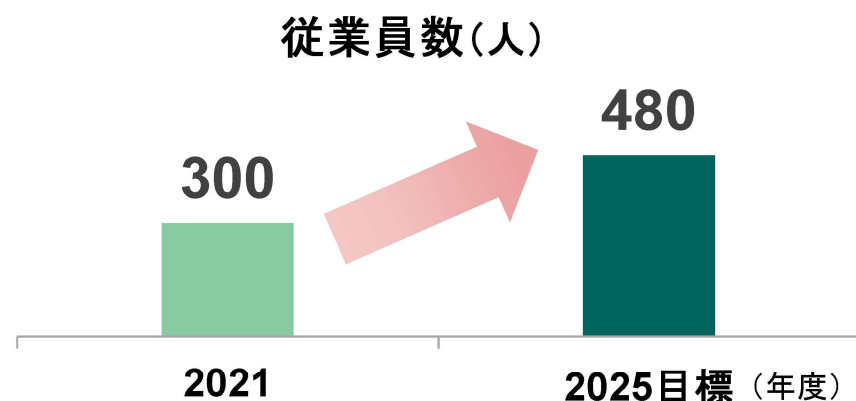
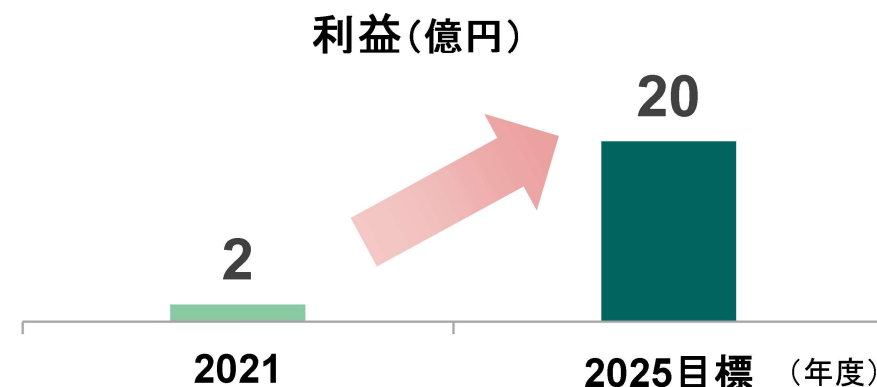
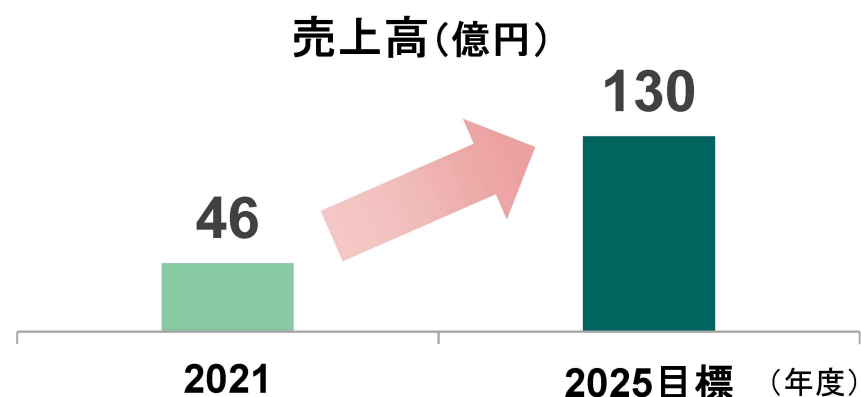


**デジタル・データの活用により、
リスクマネジメントの中核としてグループをけん引**

(4) インターリスク総研の成長戦略 ④中期経営計画(2022-2025) 定量目標

- 2025年度には売上130億円、利益20億円への成長を目指し、取組みを進めていく。
- リスクマネジメント分野は、成長領域の一つとして、規模拡大と収益力向上を同時に実現する。

インターリスク総研の中期経営計画(2022-2025) 定量目標



成長領域として規模を拡大

新たな事業・サービス展開により収益力を向上

(4) インターリスク総研の成長戦略 ⑤事業規模拡大と持続的成長

- 既存事業を深化させるとともに、新たな事業機会の発掘を実現する「両利きの経営」により持続的な成長を目指す。
- 事業規模拡大と持続的成長のための組織改編を実施し、取組みを進めていく。

**「両利きの経営」によりデジタル・データを活用し、
リスクマネジメント事業を拡大し持続的な成長を実現**

既存事業の深化

スケールで国内最大の損保グループとして、
リスクコンサルティングやリスクサーベイなど、
強みのあるサービスを一層深化

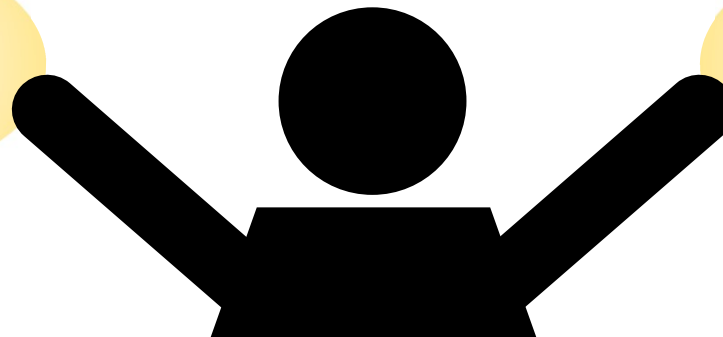
新たな事業機会の発掘

データ・デジタルの活用により、
リスクコンサルティングのソフトウェア化や
リスクマネジメントの運用サービスなど
事業・サービスを拡大

両利きの経営

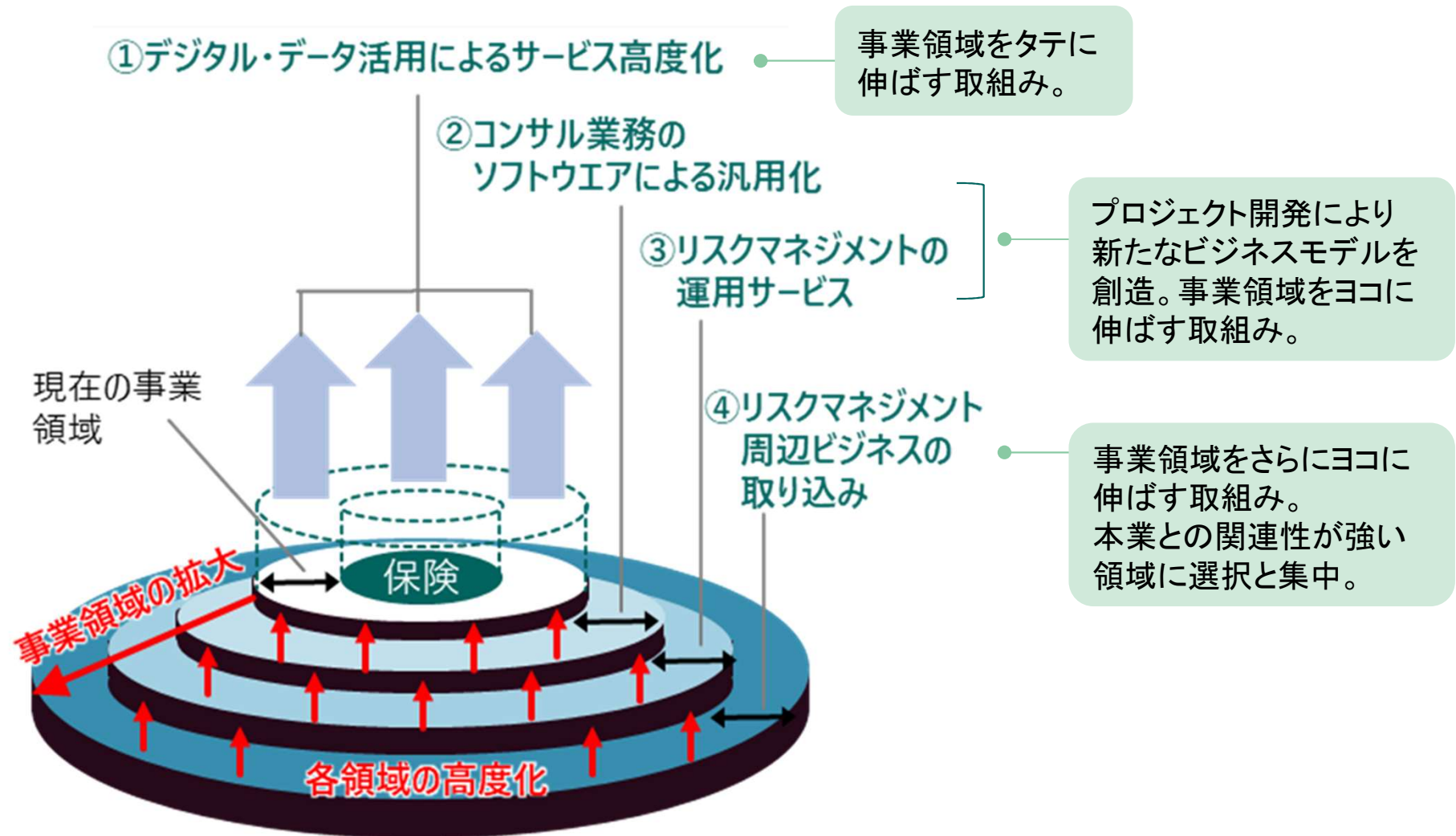
深化

探索



(4) インターリスク総研の成長戦略 ⑥成長モデル

- 保険と連動してグループのリスク関連ビジネスをけん引するとともに、独立してリスクマネジメントサービスを提供。
- 保険関連を中心とした現在の事業領域の拡大へ向け取組みを進めていく。



リスクマネジメントサービスのウェディングケーキモデル

(4) インターリスク総研の成長戦略 ⑦事業拡大へ向けた具体策

- コンサルティングサービスの高度化に加え、ソフトウェア化などによって汎用化することで事業機会の拡大を図る。
- ソフトウェアを活用したモニタリング業務、データベース販売など、新たな事業領域を創造していく。

高度化

■ デジタル・データを活用

【取組事例】

- CO2排出量算出ツール
- 人的資本経営関連サービス
- TCFD関連サービス
- TNFD関連サービス

- コンサルタント数に制限されない収益拡大が可能に
- 開発ツールを活用したモニタリングサービス展開

【取組事例】

- 事故発生リスクAIアセスメント
- サイバー監視サービス

汎用化

事業領域拡大

- ソフトウェアから構築したデータベース販売などリスクマネジメント周辺ビジネスを拡大

【取組事例】

- SARAIFR(リスク&アラート情報提供システム)
- 人的資本経営関連サービス

P.20以降
で詳細説明

2. 成長戦略としてのソリューション開発 ～リスクマネジメント運用サービスの取組事例～

MS&ADインターリスク総研
デジタルイノベーション本部 副本部長
プロダクト開発部長 土井 剛

(1) 取組事例1 ～事故発生リスクA I アセスメント～

概要

- AI活用より、潜在的な交通事故発生リスクを評価・可視化するサービス。
国内主要損保社と共同開発、2022年11月に販売開始。
- 交通事故発生リスクの評価・可視化ではサービスの提供は世界初。(インターリスク総研調べ)
- 愛媛県の「都市リスクの解析等業務」、奈良県の「大和平野中央田園都市構想
安全・安心まちづくりコンソーシアム」において、本サービスのモデル導入が決定。

(2) 取組事例2 ～サイバー監視サービス～

概要

- サイバー先進国である米国のトップ企業と提携し、補償の前後にデジタル技術を活用したセキュリティサービスを融合させた新しいビジネスモデルを国内主要損保2社と一体となり開発。
- 他社に先駆けたビジネスモデルにより市場を創造し、社会課題である中小企業のサイバー対応力向上に貢献することを目指す。

(1) 取組事例1 ～事故発生リスクAIアセスメント～

従来の対策の傾向

主に交通事故発生箇所に対する

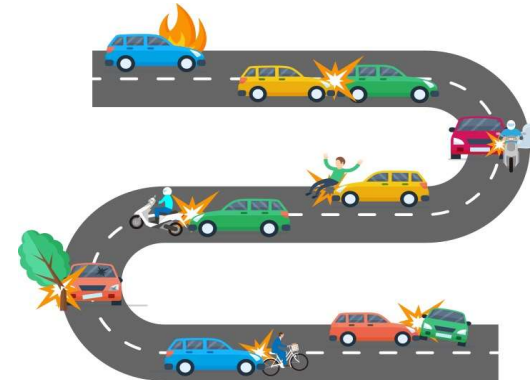
再発防止



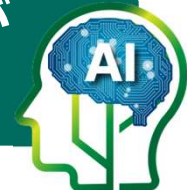
MS&ADグループの新たなご提案

潜在的なリスクへの対策

事故の未然防止



潜在するリスクの大きさを
リスク分析官（AI）が
定量的に評価・可視化

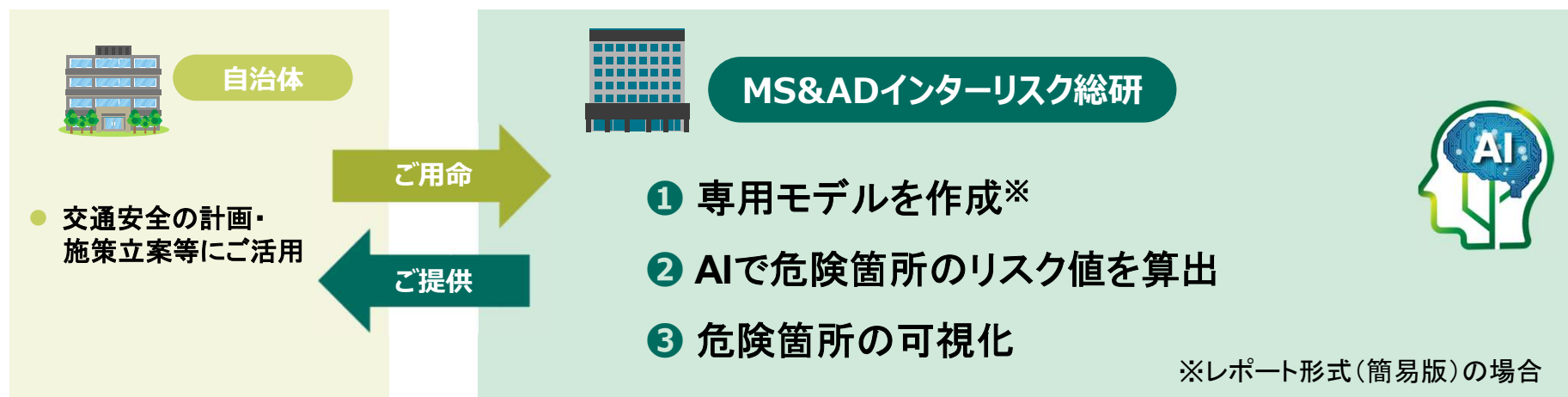


客観的なデータに基づく交通安全対策の立案・実行が可能に

（１）取組事例１ ～事故発生リスクＡＩアセスメント～

■ 全体像 ご活用いただく部署のイメージ：交通安全計画、道路管理、都市計画、危機管理等

過去に事故が発生していない潜在的な危険箇所を含む事故発生リスクをAIにより評価・可視化



■ ご提供形式

	成果物概要	契約開始時期
レポート形式 （簡易版）	レポート （該当地域における事故発生リスク上位50地点のリスト形式での提供）	2022年11月～
アプリケーション形式 （本格版）	アプリケーション （該当地域における事故発生リスクの地図形式・リスト形式での提供）	2023年7月～

(1) 取組事例1 ～事故発生リスクAIアセスメント～

課題

- 調査に多大な費用や時間
- 対策の優先順位づけ
- 対策の客観的な裏づけ
- 対策の効果検証

■ 低費用・省力・短時間で
事故発生リスクを確認

■ 潜在危険箇所含む
事故発生リスクを可視化

■ 事故発生リスクを数値化

さらに

(将来的な効果として)

- 公共交通機関等への情報提供
- 市民向けアプリ等での注意喚起



■ ヒト・モノ・カネを有効
に活用

■ 潜在危険箇所対策で
事故を未然に防止

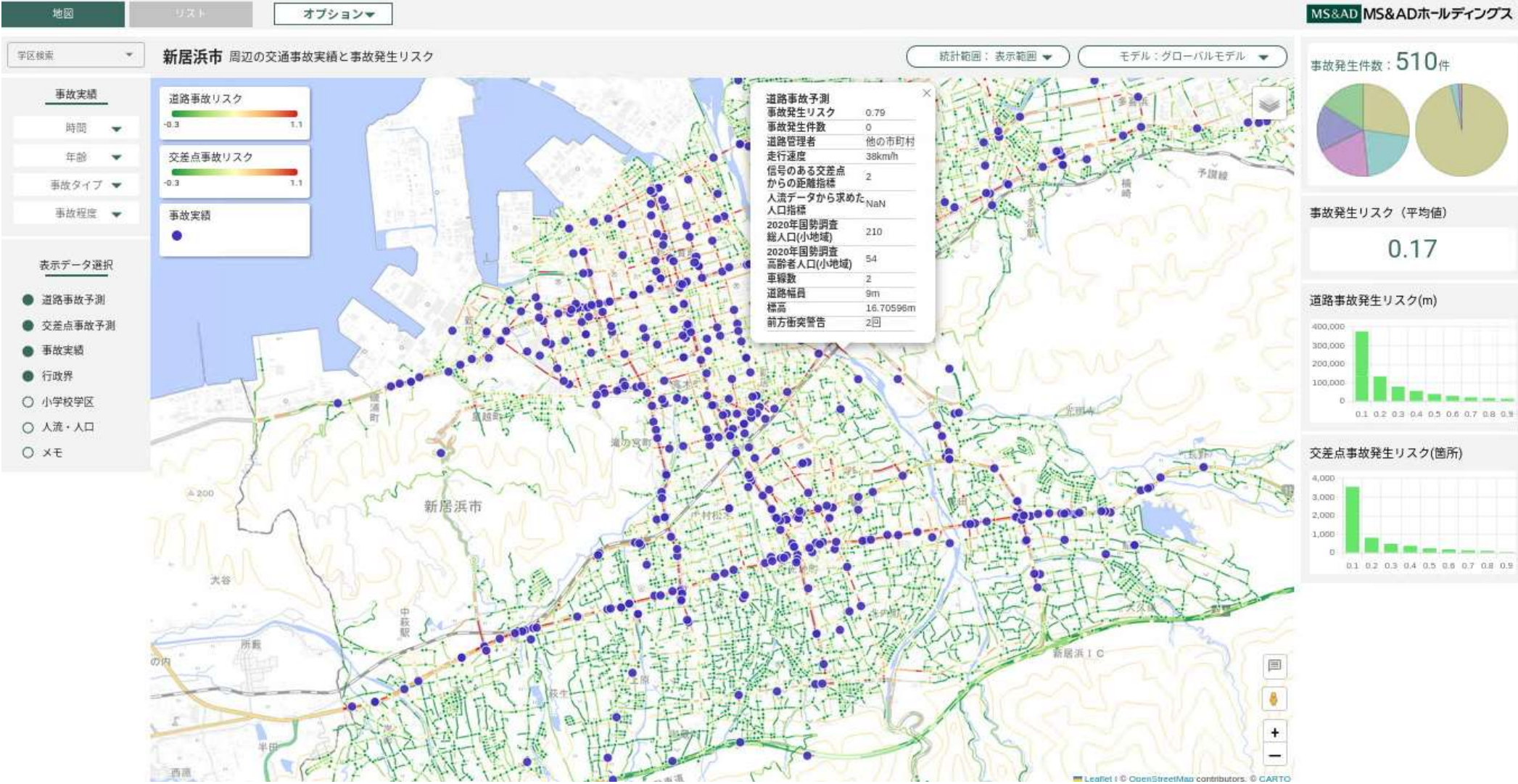
■ 対策を客観的に説明
■ 効果検証が可能に

■ 危険回避や安全運転
■ 安心・安全なまちづくり

交通事故の削減を加速

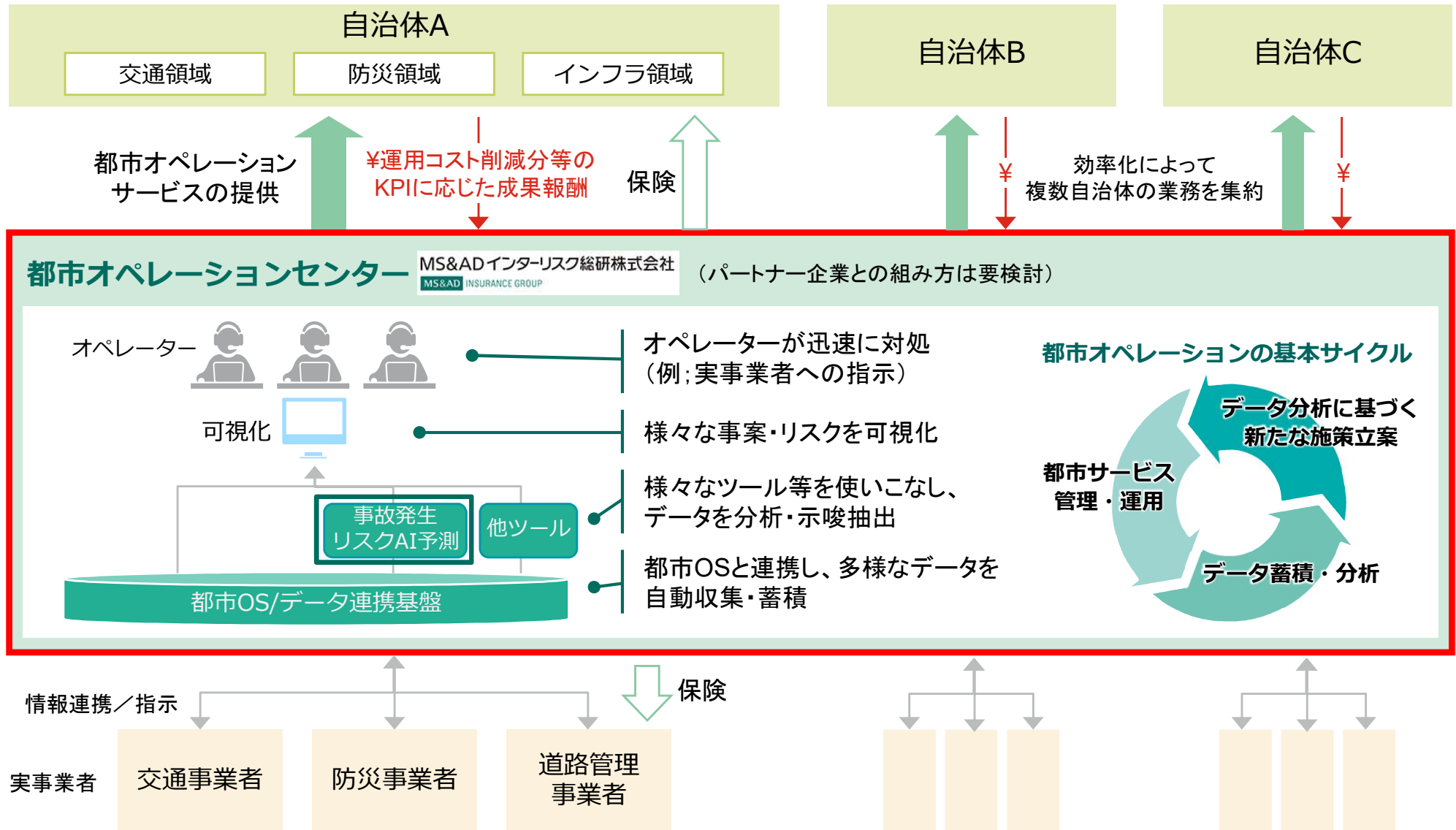
(1) 取組事例1 ～事故発生リスクA I アセスメント～

参考) 自治体向けアプリケーションイメージ (現在開発中)



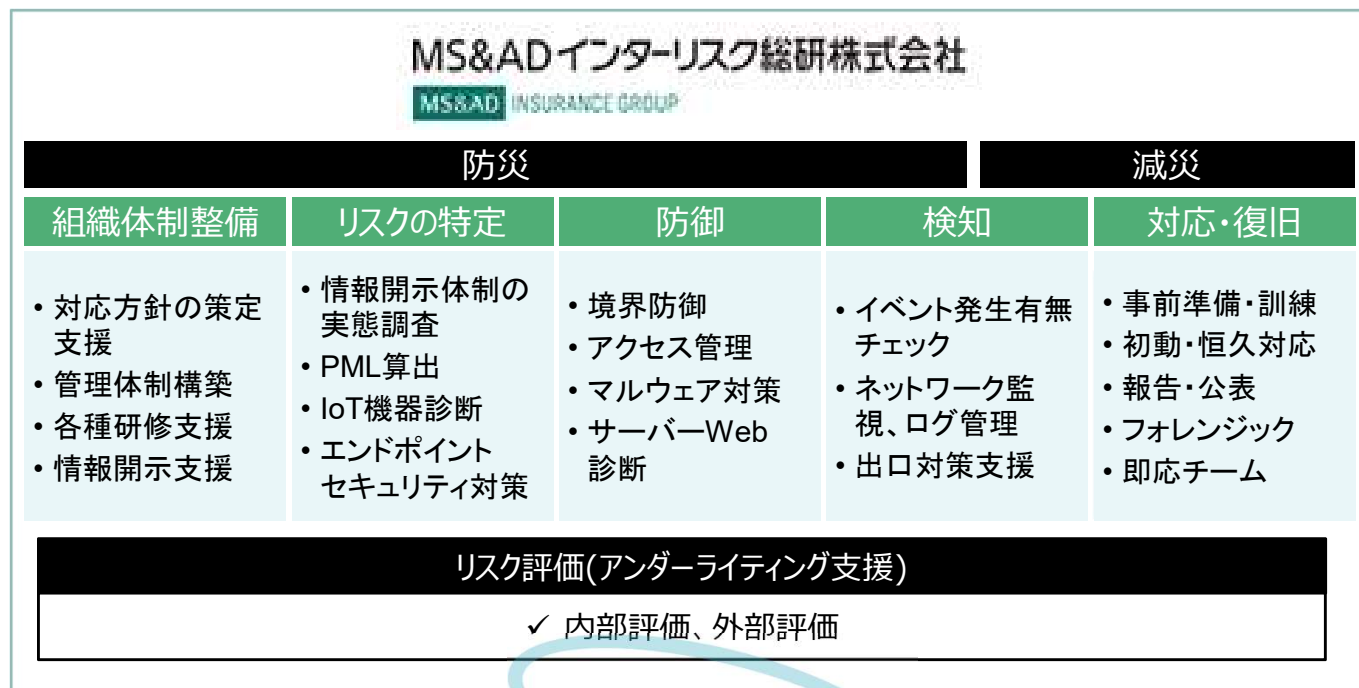
（１）取組事例１ ～事故発生リスクAIアセスメント～

- ソフトウェア化による汎用化としてプロダクトを構築しているものの、サービスの拡販・横展開に向けて、オペレーション・運用サービスへの参入や、得られたデータ販売なども目指す。



(2) 取組事例2 ～サイバー監視サービス～

- サイバーリスクに対する評価・対応能力で、日本・アジアの金融機関No.1リスクソリューションのプラットフォーマーを目指す。
- サイバーリスクの高まりを事業機会と捉え、成長ドライバーの1つとして日本・アジアにおいてサイバー保険利益規模トップを目指す。プラットフォーマーとして蓄積したデータ・知見を活用し、遅れている日本社会のサイバーリスク課題の解決を図り、社会貢献に繋げる。



サイバーセキュリティソリューション

サイバー保険商品

お客さま



企業セキュリティ

大企業

中小企業



製品セキュリティ

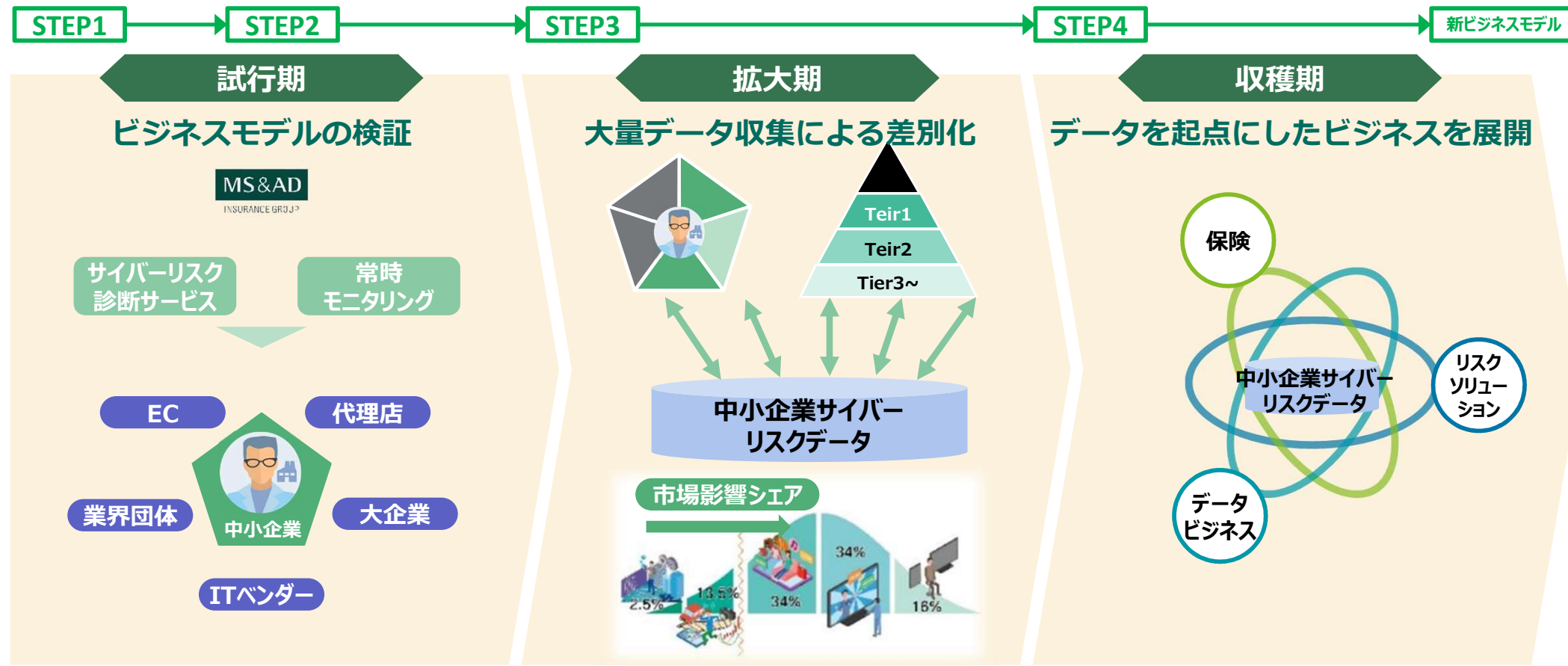


工場セキュリティ

(2) 取組事例2 ～サイバー監視サービス～

- 試行期、拡大期、収穫期の3フェーズに分けて展開し、中小企業に関する圧倒的なデータ量×質のサイバーリスクデータを保持するプラットフォームを目指す。

■ ビジネスモデルの成熟段階



ポイント

1

市場調査で判明した有力なチャネルや、当社が優位性を持つ5チャネルに対し試験的に製品を投入し、注力すべきチャネルを見定める

2

試行期で特定した効果的なチャネルやマーケットの特性を活用し、大量に中小企業のデータを獲得し、差別化する

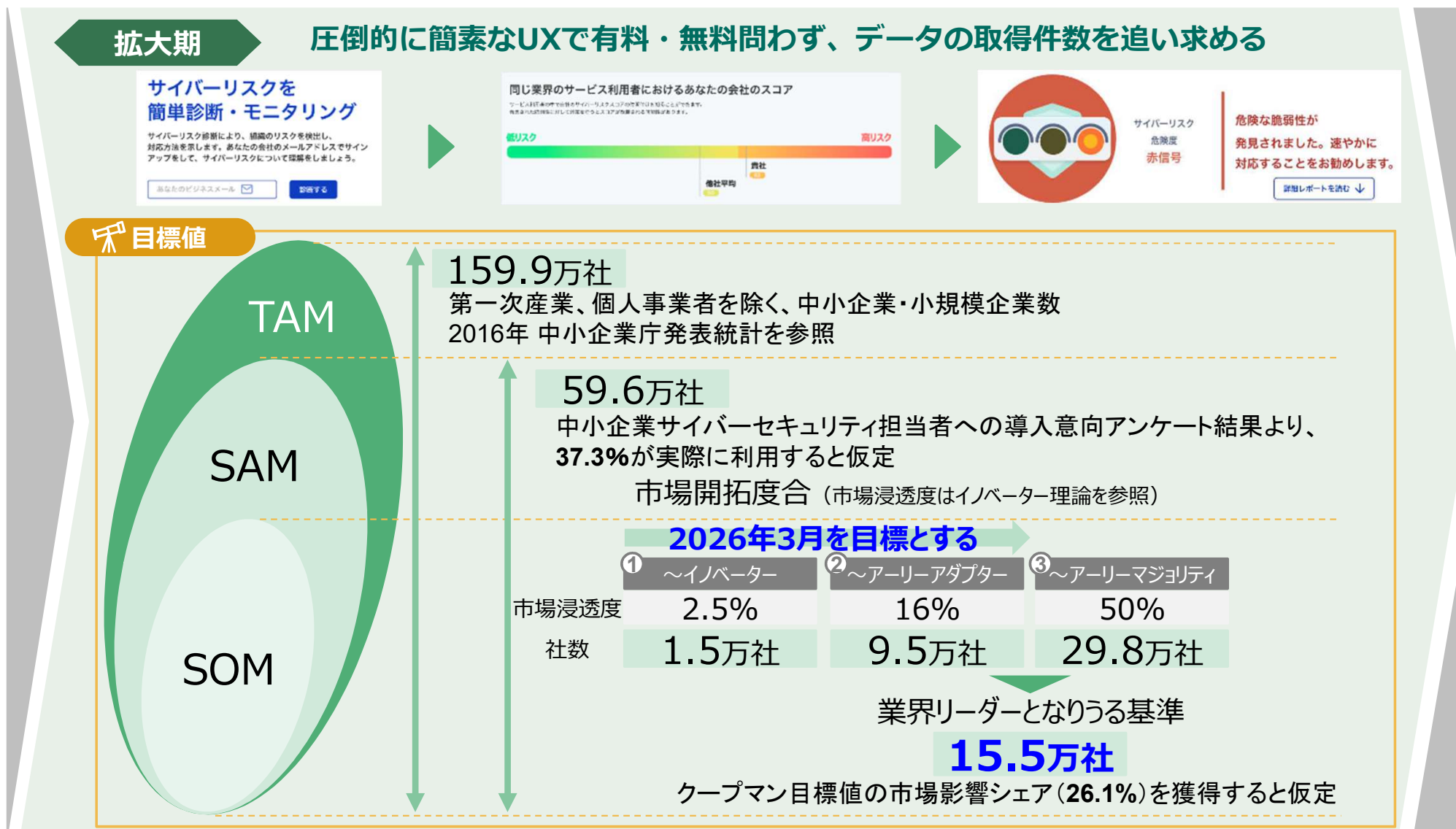
3

中小企業の脆弱性情報を数十万件保有するリスクソリューションプラットフォームとなる

(2) 取組事例2 ～サイバー監視サービス～

- 試験導入の結果、有効性が高いチャンネルに集中的にアプローチを行い、市場に影響を与える規模の顧客データ基盤を獲得する。

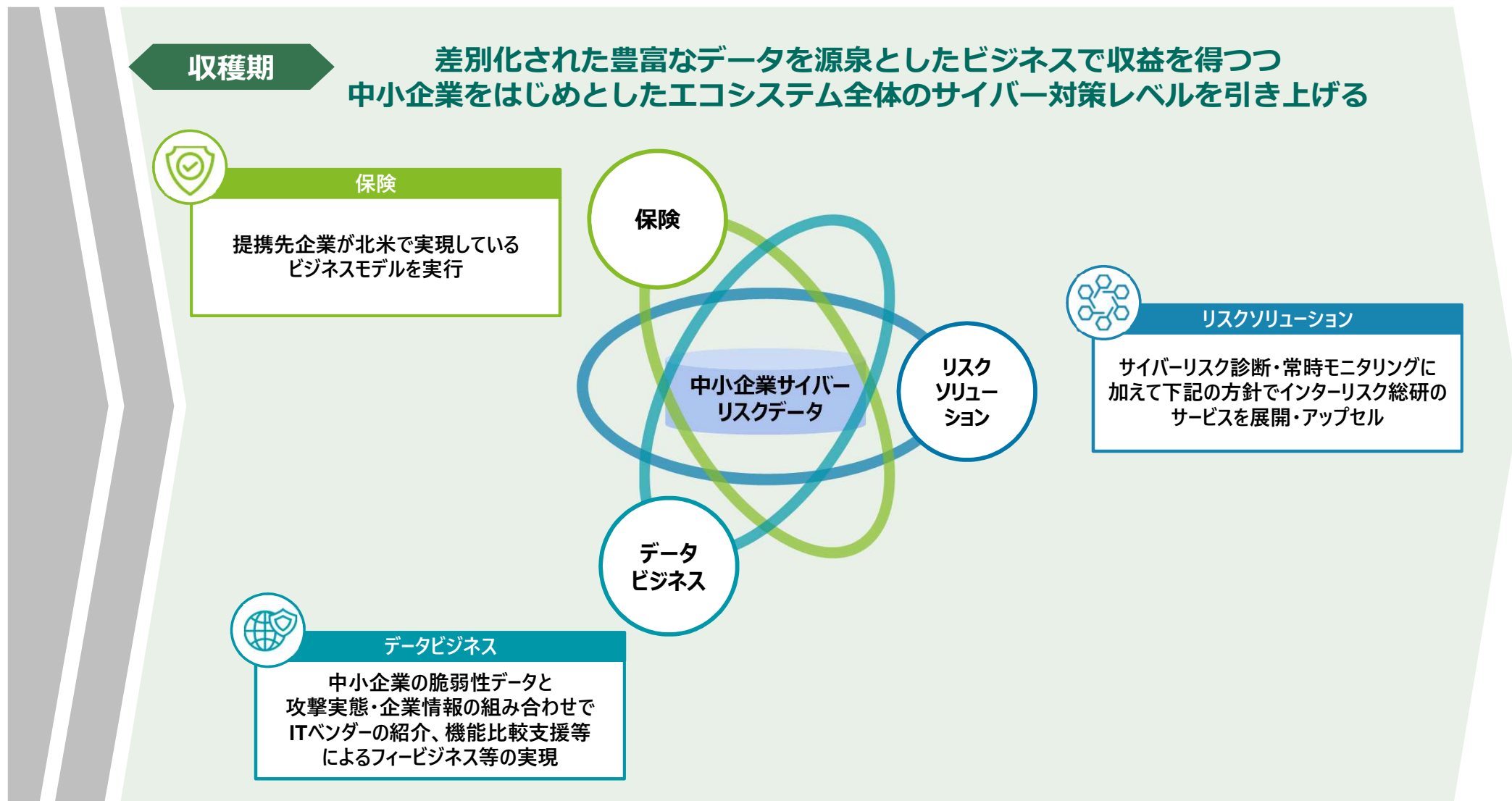
■ 拡大期のビジネスモデル



(2) 取組事例2 ～サイバー監視サービス～

- 提携先企業の持つデータの品質と獲得した中小企業のデータ量で差別化を図り、3つの収益源を得るとともに、中小企業のサイバー対策強化という社会課題を解決する。

■ 収穫期のビジネスモデル



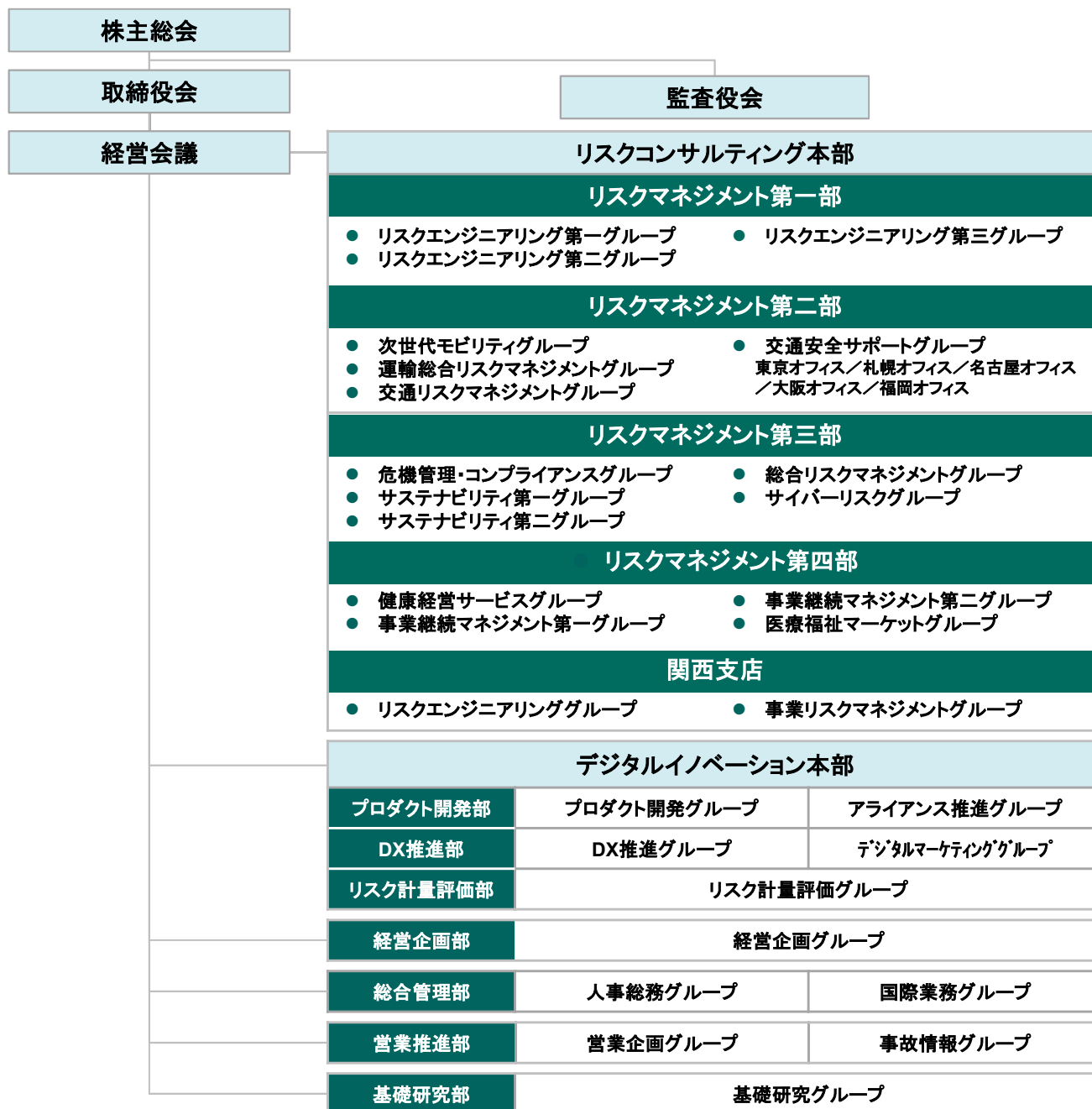


MS&ADホールディングス

MS&AD INSURANCE GROUP

参考資料

(参考資料) MS&ADインターリスク総研 組織図



MS&AD インターリスク総研株式会社

MS&AD INSURANCE GROUP

本社

〒101-0003
東京都千代田区
神田淡路町2-105
ワテラスアネックス

TEL 03-5296-8911 (代表)



海外拠点



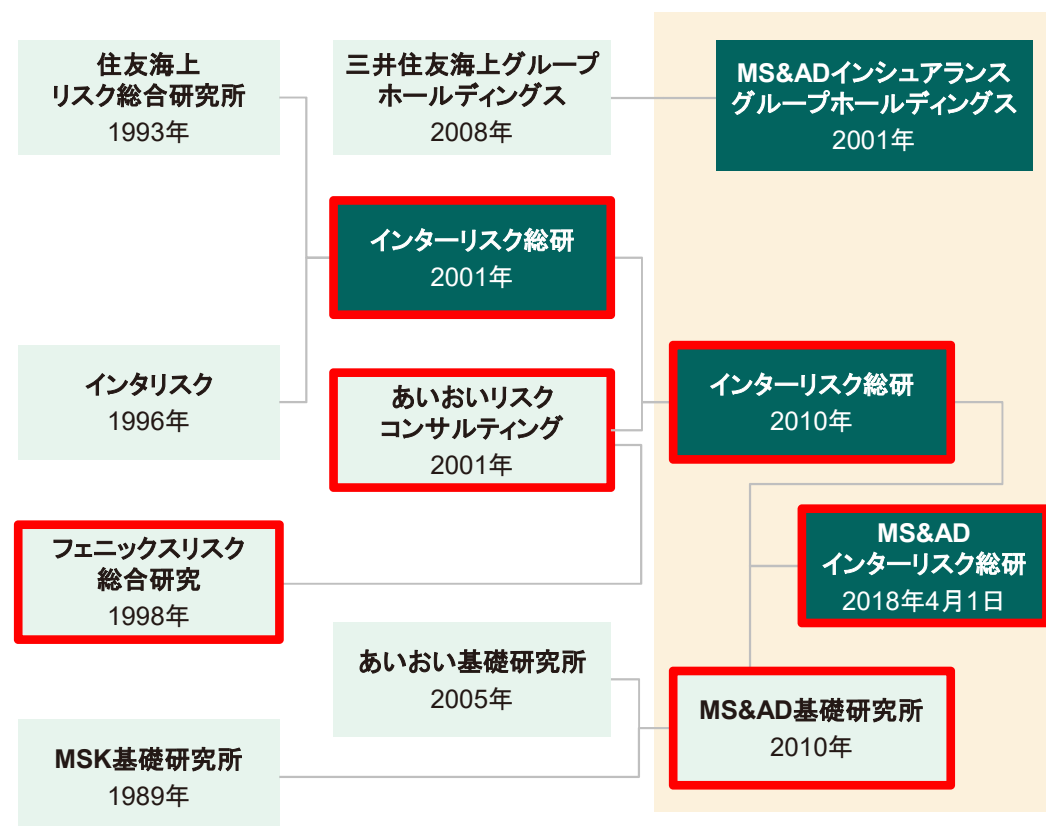
(参考資料) MS&ADインターリスク総研 歴史・概略

- リスクマネジメントサービスを提供するコンサルティング会社
- 「あいおいリスクコンサルティング」、「フェニックスリスク総合研究」との合併(2010年)、「MS & AD基礎研究所」との合併(2018年)により誕生

■ 会社概要

商 号	MS&ADインターリスク総研株式会社 英文名 MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.
本社住所	〒101-0063 千代田区神田淡路町2-105 ワテラスアネックス(10~11階) TEL:03-5296-8911(代表) FAX:03-5296-8940
設立年月日	1993年(平成5年)1月4日
資本金	3億3,000万円
売上高	42億6,800万円(2020年4月1日~2021年3月31日)
取締役社長	中村 光身
従業員数	310名(2022年4月)
事業概要	コンサルティング 受託調査研究 セミナーの開催 / 講師派遣 出版

■ 沿革





お問い合わせ先

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社 広報・IR部

<https://www.ms-ad-hd.com/ja/ir/contact.html>